社会科における学び続ける子ども

1．学び続ける子どもとは

学ぶ続ける子どもとは，「どうしても学びたい」という意欲と実際に「学び続けることができる」力をもった子どもである。そして社会科でその育成が求められる「学び続ける子ども」とは，社会的事象や問題に対して問いかけ，追究することが大好きな子どもであり，社会的事象や社会の問題を「読み解く力」[1)] をもった子どもであろう。社会的事象や問題に対して問いかけ，追究することが大好きな子どもを育てるためには，実際にそのような活動を社会科の学習で行うことが必要である。それでは，社会的事象や社会の問題を「読み解く力」とはどのような力だろうか。

社会を読み解いていくためには，社会に対して次のような「問い」をもつことが必要である。

・どうなっているか（いつ，どこ，誰が，何を，どのように，どのような）
・なぜか・どうしてか
・どうしたらよいか，善いか悪いか，どの解決策が望ましいか

社会的事象や社会の問題に対して，「どうなっているか」「なぜか」「どうしたらよいか」と問い，その答えを求めていく力が社会を「読み解く力」であり，このような「問い」を持ち続ける子ども，つまり，問い続ける子どもの育成が求められる。

2．問い続ける子どもを育てる社会科学習

問い続ける子どもを育成するためには，次のような「社会を知る」「社会をわかる」「社会にかかわる」ための学習を実際に子どもが経験することが必要である。

○社会を知る学習
…社会的事象に対して「どうなっているか」と問いかけ，資料から必要な情報を読み取り，知ったことをまとめる。

○社会をわかる学習
…社会的事象に対して「なぜか」と問いかけ，事象相互の関係やその意味・意義を考えて，わかったことをまとめる。

○社会にかかわる学習
…社会的事象に対して「どうしたらよいか」と問い，課題解決の方法や方策を判断して，その結果をまとめる。

3．問い続ける子どもを育てる教材の開発

上述したように，社会を「読み解く力」を育てる社会科授業には問いの成立が不可欠である。そのためには，子どもが「おかしい」，「不思議だ」，「変だ」，「おもしろそうだ」と興味を持つ教材，「すごいな」と感動する教材，多様な問いが生まれる教材，一人ひとりの子どもにとって切実な問いが生まれる教材，調べ考えていくうちにさらなる問題が見つかる教材を開発していくことが必要である。そのような教材開発の視点として，次の三点をあげたい[2)]。

・人間が各時代や状況の中で直面した課題を，工夫・努力・協力しながら問題解決している姿の教材化
・グローバル化，情報化，環境悪化など社会の変化に伴って提起されている課題の教材化
・簡単には答えが出ないような課題（社会的な問題や論争的問題）の教材化

（共同研究者：初等教育開発講座，加藤　寿朗）

【参考文献等】
1）小原友行「『思考力・判断力・表現力』をつける社会科授業づくり」小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』明治図書，2009, pp.7-13。
2）拙稿「『思考力・判断力・表現力』をつける小学校社会科授業」同上書，pp.14-21。